日本中小企業学会

2017 年 1 月

会　報

No. 70

会長就任にあたり

日本中小企業学会　岡室　博之　新会長挨拶

岡室　博之　（一橋大学）　新会長

「変革の時」

2016 年 11 月 1 日付で、日本中小企業学会の第 13 代会長に就任しました。1980 年に設立された本学会は 36 年目を迎えました。これまでの長い伝統と成果を踏まえ、日本の中小企業研究の中核を成すべき本学会をいかに発展させ、次世代に繋げていくか。その方向性と戦略を考え、実現していくことが、新会長に与えられた任務であると考えています。

本学会を企業に例えるなら、創業から 30 余年を経て成熟期を迎えた中堅企業です。立派に成長し安定しているように見えますが、私は大きな危機感を抱いています。そして、この危機感を多くの会員・役員諸氏と共有し、更なる発展に向けた改革に繋げたいと考えています。大袈裟な言い方かもしれませんが、第二創業が待ったなしです。今は正に社会・経済の仕組みの大きな転換期であり、日本の中小企業をめぐる経済環境もめまぐるしく変わりつつありますが、中小企業研究の世界も大きく変わっています。その変化に遅れず、挑戦し、本学会を真に日本の中小企業研究を代表し、若手研究者を魅了し、世界に通用する学会にすること、少なくともそのための道筋をつけること、これが私の目標です。

研究はグローバルな競争の時代を迎えています。研究競争のグローバル化は、既に経済学の分野では一般的になっていますが、それが学際的な応用分野としての日本の中小企業研究に及ぶのも時間の問題です。韓国や中国の中小企業研究は、大変なスピードでグローバル化を進めています。私が中小企業研究の国際的学会誌である Journal of Small Business Management のエディターを務め、また中小企業に関連する国際学会等に参加して痛感するのは、欧米諸国のみならず、韓国や中国など東アジアのプレゼンスの高さです。本学会の報告や投稿を英語にするなどと言うつもりはありません。全国大会における国際交流セッションの開催も重要な成果です。しかし、世界に通用する水準になるためには、いくつかの点でなお改革が必要です。そのために、日本国内や海外の関連学会・研究機関との連携を強化し、またそれらの良いところを学んで取り入れていくことが重要だと思います。

前会長の寺岡寛先生は、会長就任の挨拶で「若手研究者―新入会員―の育成、国際交流の活発化を通して学会員の研究水準の向上を目指すことへの支援、学会財政状況の改善などがわたしの使命である」と書かれました。12 期を通じて学会財政状況は大きく改善されましたが、他の２つはまだ道半ばであると認識し、これらを引き続き私の使命としたいと思います。後日、私の中期的な改革ビジョンを役員・会員の皆様にお示ししてご意見を求め、具体化の方策を検討します。もちろん、地に足の付いた活動ができるよう、学会事務局の作業を効率化しつつ、事務局にしっかり支えてもらわなければなりません。これから 3 年間、事務局ともどもよろしくお願いします。